

再評価結果（令和4年度事業継続箇所）

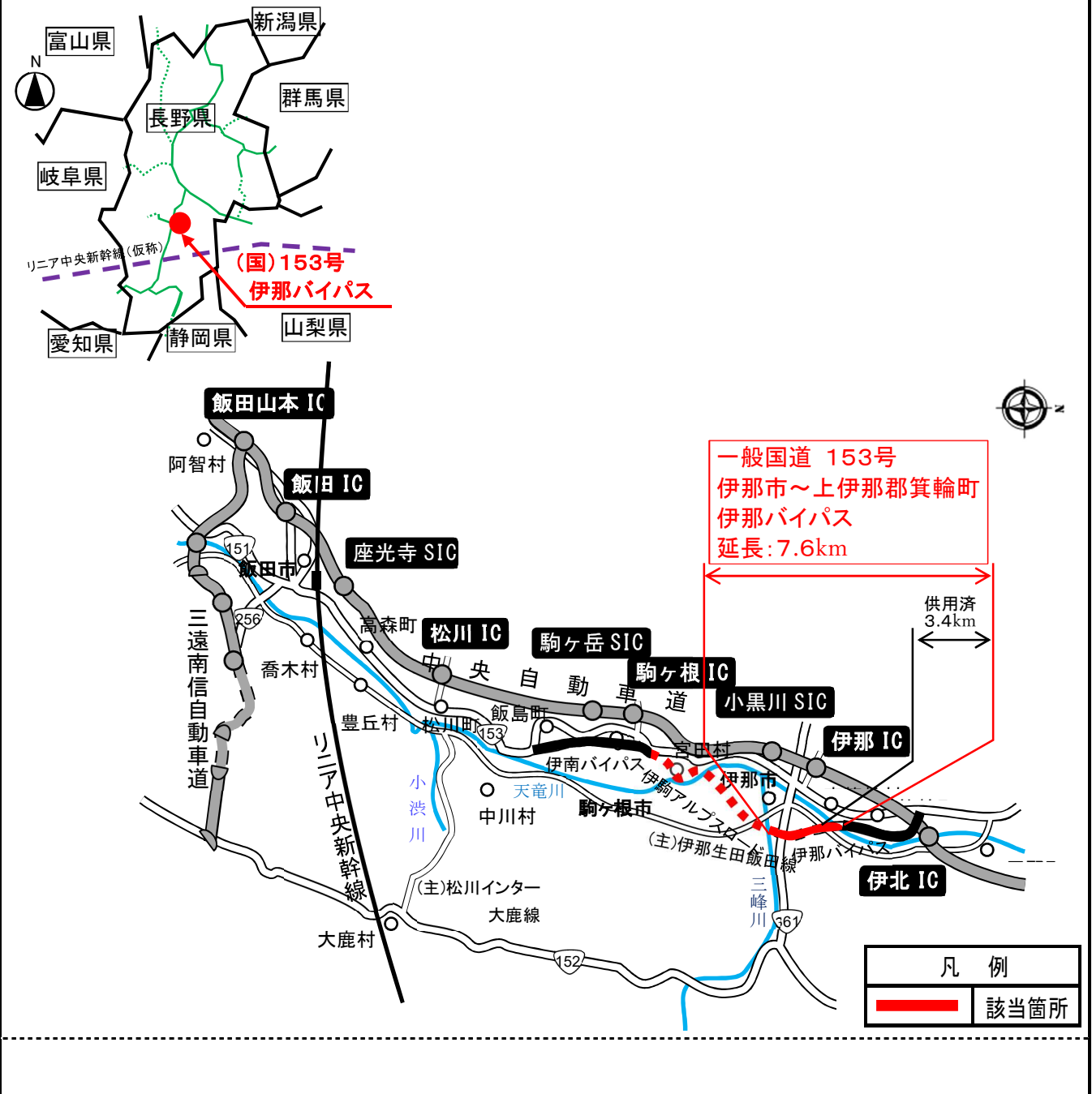
担当課：国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	重要物流道路 一般国道153号 伊那バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	長野県
起終点	白：長野県伊那市日影 至：長野県上伊那郡箕輪町木下	延長	7.6 km		
事業概要					
<p>一般国道153号は、政令指定都市である愛知県名古屋から、長野県塩尻市に至る路線である重要物流道路である一般国道153号の一部にあたる当該箇所を整備することにより、地方中心都市の飯田市、地方生活中心都市の伊那市、特に地域で重要な都市の塩尻市間の平常時、災害時を問わない安全かつ円滑な物流を確保するものである。</p>					
H9年度事業化	H8年度都市計画決定	H10年度用地着手	H12年度工事着手		
全体事業費	約310億円	事業進捗率	約73%	供用済延長	3.4 km
計画交通量	26,700台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 6.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 54/389億円 事業費：48/383億円 維持管理費：6.4/6.4億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 335/498億円 走行時間短縮便益：327/476億円 走行経費減少便益：7.3/20億円 交通事故減少便益：0.98/2.6億円	基準年	令和3年
感度分析の結果					
<p>(事業全体) 交通量：B/C=1.2~1.4(交通量±10%) 事業費：B/C=1.3~1.3(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.2~1.4(事業期間±1年)</p> <p>(残事業) 交通量：B/C=5.7~6.8(交通量±10%) 事業費：B/C=5.7~6.8(事業費±10%) 事業期間：B/C=5.7~6.6(事業期間±1年)</p>					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> ・現道の交通量は14,658台/日と多く、慢性的な渋滞が発生し、イライラ箇所に選定されている。特に通勤時の渋滞は激しく、円滑な交通に支障をきたしているため、当該箇所の整備により、交通の円滑化、交通混雑の緩和が図られる。 ・第三次救急医療機関（伊那中央病院）へのアクセス向上に寄与する。 ・中央自動車道の代替機能や第一次緊急輸送路としての機能を担い、平常時、災害時を問わない安全かつ円滑な交通の確保に寄与する。 ・現道は、交通量が多く、事故発生件数が多い。歩道未整備区間もあることから、通過交通の転換により現道沿線部の交通事故減少が期待される。 ・伊北ICに直結し、工場誘致等による地域の経済発展に寄与する。 ・一般国道153号の機能強化を図ることで、高速道路と一体となって、リニア中央新幹線の整備効果を広く波及させる。 					
関係する地方公共団体等の意見					
国道153号伊那バイパス期成同盟会から毎年、促進要望がある。					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
周辺環境等に特に変化はない。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地取得率約70%、事業進捗率約73%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
引き続き、早期開通に向けて事業を進める。					
施設の構造や工法の変更等					
今後も新技術の採用など、工事コスト・総コストの縮減に努めていく					
対応方針	事業継続				

対応方針決定の理由

事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。